

国語科学習指導案

指導者 高橋明子

1, 日時 平成17年11月17日(木) 3校時

2, 学級 1年1組 男子19名 女子17名 合計36名 南校舎4階

3, 主題 五、古典と出会う 「今に生きる言葉」

4, 主題について

本単元は中学校での漢文入門に位置づく学習である。中国から多くの文物を受け入れた祖先は、そこから名言・名句を抜き出し、それは、今も私たちの生活に生き続けている。その一つが故事成語である。「矛盾」は漢文の書き下し文を初めて学習する教材である。盾と矛を売らんとする楚人は、盾を「突き通すことができる物がない」といい、その矛を「全ての物を突き通すことができる」と褒めてしまい、それを聞いていた人につじつまが合わないことを指摘される。自分の願いを叶えたいと思うがあまり、よく考えれば分かることを、考えずに失敗してしまう楚人は、滑稽であると同時に愛すべき人物でもある。冷静さを失い、論理性を欠いてしまうという陥りがちな失敗が「矛盾」である。この楚人の言動に、生徒は親しみをもち、このような故事をもつ故事成語に興味を持つであろう。「矛盾」には、古文の特色である「歴史的仮名遣い」「文末表現」「言葉遣い」「助詞の省略」が適度に含まれ、既習事項を活かしながら読むことができる。さらに、音読により、漢文書き下し文の力強い響きも味わうことができる。この「矛盾」の学習を通して、他の故事成語の意味や故事についての興味を喚起するとともに、故事成語をどのような手段で調べればよいのかを学習するものとする。

生徒たちは、積極的に学習に取り組んでいる。前教材「竹取物語」では、歴史的仮名遣いや古文の特色である文末表現と言葉遣いに触れながら、古典の世界にいる人物の生活や人物像をとらえる学習を行った。この古典の学習においては、物語の面白さ、音読のリズムに興味を持ち、登場人物の生活や考え方をとらえることができた。しかし、長い古文を読み慣れるまでに至らず、古語に抵抗感を示している生徒もいる。また、「四、暮らしを見つめる～課題について調べよう～」では、意見文を書くために自分の課題に関する資料を探す活動を行っている。この学習では、教師が準備した資料の中から探したことから、どの生徒も自分の課題にあった資料を探すことができた。しかし、資料の活用となると、どの部分が自分にとって必要な材料なのかを判断しきれず、情報が整理されていなかったり、不十分だったりする生徒も見られた。

指導に当たっては、中国の古典が生活の中で用いられる身近なものであることをおさえたい。そのために、「矛盾」以外にも多くの故事成語に触れ、適切な資料からその意味や故事を調べる方法を学習させ、資料で調べたことを日常の言語活動に生かせるようにしたい。日常使っている言葉の由来を知ることにより、中国の古典の世界を身近なものと感じることができれば、深い内容と洗練された表現に学ぶ楽しさをも感じることもできるのではないかと考える。資料を探す際に「登場人物」「ストーリー展開」「話の性格」という観点からふさわしい資料を生徒が探し出し、故事の面白さを説明できるようにしたい。

5, 指導の評価と計画

別紙「指導と評価の計画」による。

6, 本時の達成目標

国語への関心・意欲・態度	古典の世界に関心をもって、作品を読もうとしている。
読むこと	「矛盾」の故事を読み、他の故事成語との共通点を説明することができる。
言語についての知識・理解・技能	「矛盾」の意味を理解し、正しく用いることができる。

7, 本時の指導の構想

(1) 指導構想ならびに留意点

「矛盾」や他の故事成語の故事の読み方を学習する活動を中心に行う。故事を読むとき観点と他の故事を調べるにはどのような資料があり、どう探せばよいのかを考えて読むことがねらいである。次時以降の調べ学習にむけ、必要な情報の手に入れ方、どのような視点で整理するか注目する読み方を身に付けさせたい。また、古典の文章に対しても抵抗感を持たせないように配慮したい。本文は書き下し文に付け加えて口語訳もついていることから、あくまで、課題に沿った学習ができるようにしたい。

(2) かかわりあいを生かす手だてについて

前時の想起から故事成語の故事を観点をもって読むことの必要性を確認させ、学習課題設定の必然性を意識させたい。その後の学習過程でも、課題解決のために見通しをもつ、個による課題追究、学び合いによる課題解決、振り返り、と進め、それぞれの学習の必然性を生徒一人一人が意識できるよう、どんなねらいで次に何に取り組むのかを明らかにしていきたい。故事の特徴をとらえさせ、説明させる際には、観点を表す用語を「ことば」として意識的に使わせたい。

本時の学習が、次時の学習のよりどころとなるようにしたい。

段階	過程	時間	学 習 活 動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導 入	課題確認	5分	1 前時の学習を想起する。 2 故事成語の意味を確認する。 3 本時の学習課題を確認する。 「矛盾」の故事を確かめて共通点のある故事成語をさがそう。		1 前時の学習を想起させながら中国の古典に由来する語句の中に故事成語があることを確認する。 2 故事成語にはそれぞれ故事があることをおさえる。 3 「共通点」を意識させながら故事成語の故事をとらえていく課題の設定につなげる。	一斉 紙板書 学習シート
展 開	課題追究	20分	4 書き下し文と口語訳を比べて読む。 5 学習の仕方を確認する。	6、7 記述内容、発表内容 5つの故事成語の故事から「矛盾」との共通点を指摘できたか。 G 1 : 故事の共通点を指摘しその理由を豊かに説明している。 G 2 : 故事の共通点を指摘しその理由を説明している。 G 3 : 共通点に関わる箇所に注意させて口語訳をもう一度読ませる。	4 口語訳を読み大意をとらえることから始める。書き下し文を口語訳と照らし合わせて読ませ意味をとらえたうえで音読をさせる。しかたを変えながら音読をさせる。 5 板書を見ながら、故事の内容で判断することをおさえさせる。 6 B C E ・机間巡視を行い。必要に応じて支援する。 ・「話の性格」については多様な読みを認めていく。 7 A D ・共通点として挙げた言葉から「話の性格」に関わることを取り上げて観点としてまとめさせるようにする。 ・観点を表す用語を「ことば」として正しく使わせる。 ・的確にまとめて整理して書けたことを認める。	紙板書 個 学習シート
	課題解決	15分	6 それぞれに故事成語の故事を読み、観点到に沿ってまとめる。 7 まとめたものを発表する。			
終 末	まとめ	10分	8 他の故事成語の調べ方を確認する。 9 授業のまとめを書く。 10 次時の確認をする。	9 記述内容 古典の世界に興味を持って作品を読もうとしていたか。 G 1 : 教科書以外の故事成語についても広く調べようとしている。 G 2 : 教科書の他の故事成語について由来を調べようとしている。 G 3 : 分かりやすい故事や知っていると思われる故事成語に注目させて興味・関心を引き出す。	8 インターネット、日本十進分類法にもふれる。 9 授業記録を通して、本時の学習でわかったこと、自分の取り組みについての評価を書かせる。 10 故事成語を選び、意味や故事を調べるといった次時の学習内容を予告する。	個 学習シート

1 年 国語		単元(題材)名 五、 古典と出会う 今に生きる言葉				総時間 5 時間
学習指導要領の指導事項 ・C 読むこと カ 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。 [言語事項] ・(1)ウ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心を持つこと。						
単元の目標		主な学習活動	評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む力	言語についての知識・理解・技能
漢文独特の言い回しに慣れるとともに、名句・名言や故事成語について考えを深めている。		名句・名言や故事成語の成り立ちを理解する。	B = 「おおむね満足できると判断できる状況」	教材文中の名言・名句について調べ、自分の体験と結びつけて感想をまとめようとしている。	教材文中の故事成語の意味や成り立ちについて、整理してまとめている。	短作文の中で、自分で取り上げた故事成語の7割程度を適切に使用している。
			A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	教材文中の名言・名句について調べ、自分が調べた言葉も例にあげながら、自分の体験と結びつけて感想をまとめようとしている。	教材文の例にとどまらず、自分で調べた故事成語の意味や成り立ちについて、整理している。	短作文の中で、自分で取り上げた故事成語をすべて適切に使用している。
			C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への手だての例	教材文中の名言・名句の由来や意味を、辞典や資料を活用して調べようとしている。	教材文中の故事成語からいくつかを抜き出して、その意味や成り立ちを整理させる。	故事成語を使った短作文の例を示し、参考にしながら自分でも作れるように指導する。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む力	言語についての知識・理解・技能
1	2 本時 (1/2)	「矛盾」の故事と意味を調べて観点をとらえてまとめることができる。	「矛盾」を読み、まとめ方の観点をとらえる。	漢文訓読体の特徴をつかみながら故事成語の成り立ちやをに興味・関心をもち、本文を読もうとしている。	教材文中の故事成語の意味や成り立ちについて、整理してまとめている。	
2	3	自分で選んだ故事成語を調べ、意味や故事を整理してまとめる。	「矛盾」以外の故事成語を調べ、意味や由来を観点到即してまとめる。	教材文中の名言・名句について調べ、自分の体験と結びつけて感想をまとめようとしている。	教材文中の故事成語の意味や成り立ちについて、整理してまとめている。	短作文の中で、自分で取り上げた故事成語の7割程度を適切に使用している。